

39th world skills competition 第39回技能五輪世界大会(静岡)

1. はじめに

2007年ユニバーサル技能五輪国際大会が2007年11月14日～21日に静岡県で技能五輪国際大会と障害を持つ技能者の国際アビリンピックが初めて同時開催され、62の国と地域が参加し293,000人が入場した。技能五輪国際大会は39回目の大会となり、選手および役員等約2,800人の参加であった。ここでは筆者がエキスパートとして参加した家具職種について報告する。

2. 技能五輪国際大会

わが国では、今まで1970年第19回東京（千葉）大会と1985年第28回大阪大会の2回開催されている。大会の参加資格は、大会開催年に22歳以下であり、各国の競技会を勝ち抜いてきた精鋭たちである。家具職種はヨーロッパの国々の参加が過半数を占めており、家具がヨーロッパの生活文化に根ざし長い歴史を感じざるを得ない。

3. 競技と課題

3.1 競技会場と使用機器

競技会場は静岡県沼津市の沼津高専グラウンドの仮設テント内であった（写真1）。この競技大会は、家具産業の現状に即した木工機械や木工具などを用いて課題を製作し、その作品の優秀さを競うもので競技会場に設備されている機器は、特殊な木工機械が設置されているわけではない。

3.2 競技課題

競技課題は、2007年10月中旬にネットで世界中に公表された。今大会から事前に公表し競技開始時に30%変更した課題を選手に改めて出題された。

3.3 採点基準

採点基準は、主観採点と客観採点に分けられ項目ごと

に細目が決められている。客観採点と主観採点の比は約1：2であり主観採点の割合が多くなっている。ここ数回の国際大会で議論がなされ、客観採点の比率を多くしようという動きがある。

3.4 競技

競技は4日間22時間で実施され、どの部材から取り掛かってよく、普段と全く異なった作業条件のもと、どのような時間配分で作業を進めるかを瞬時に判断し、また日々変化する状況のもと臨機応変に対応できることが求められる。

4. おわりに

第40回技能五輪国際大会は、2009年9月1日～6日までカナダ・カルガリで開催される予定である。今後CNCが導入される予定でありカナダ大会では、そのデモンストレーションが行われるようである。従来の木工作業だけでは世界に立ち向かうことが難しくなっている。カナダ大会に参加できる選手は、今年11月に千葉で行われる技能五輪全国大会の優勝者である。木材加工の今後に若い力を期待している。



写真1 競技会場



写真2 競技を終えて

リレートークにつきましては、本号をもって終了させていただき、2009年1号より、施設紹介のページと代えさせていただきます。長期間にわたりご愛読いただき誠にありがとうございました。
〈事務局〉